

○財務省告示第三百三十三号  
 個人向け国債の発行等に関する省令（平成十四  
 年財務省令第六十八号）第四条第十四項の規定に  
 基づき、平成二十七年九月十五日に発行した個人  
 向け国債の発行条件等を次のとおり告示する。

平成二十七年十月九日  
 財務大臣臨時代理  
 山本 早苗

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	
名称及び記号	発行の根拠	法律及びその条項	振替法の適用等	発行額	最低額面金	振替単位	発行日	発行価格	利率	初期利子
個人向け利付国庫債券（固定・三年）（第六十三回）	特別会計に関する法律（平成十九年法律第二十三号）第四十六	条第一項	社債、株式等の振替に関する法律（平成十三年法律第七十五号。以下「振替法」という。）の規定の適用を受けるものとし、その振替機関は日本銀行とする。	額面金額で二百二億千三十四万	円 一 万 円	振替法の規定による振替口座簿の記載又は記録は、最低額面金額の整数倍の金額によるものとする。	平成二十七年九月十五日	額面金額百円につき百円	年〇・〇五パーセント	平成二十八年三月十五日を支払期とし、次の算式により算出した金額を支払う。ただし、支払

十一	第二期以後の利子
十二	償還期限
十三	償還金額
十四	払込期日
十五	払込場所
十六	中途換金
	の取扱い

期が銀行休業日に当たるときは、その翌営業日に支払う（以下、次号及び第十二号において規定する期日について同じ。）。

$$\frac{\text{償還金額} \times 0.05}{100} \times \frac{1}{2}$$

毎年三月十五日及び九月十五日を支払期とし、各支払期において、その日以前六月間に属する利子を支払う。

平成三十年九月十五日  
 平成二十七年九月十五日  
 日本銀行の本店又は支店  
 中途換金の買取りは、平成二十八年九月十五日以後において行

うこととし、その買取金額は、次の区分に応じ、それぞれの算式により算出した金額とする。

(一) 平成二十八年九月十五日から平成二十九年三月十五日前

$$\frac{\text{償還金額} + \text{利息} - \text{入金総額}}{100} \times 2 - \text{入金総額}$$

なお、受入経過利子に相当する金額は、次の算式により算出し、その算出結果に円未満の端数が生じた場合には切捨てとし、一円に満たない場合

には一円とする。ただし、受入経過利子に相当する金額は、個人向け国債の発行等に関する省令（平成十四年財務省令第六十八号）第四条第十二項に規定する受入経過利子が発生しない銘柄については零とする（次号において同じ。）。

$$\text{額面金額} \times \frac{0.05}{100}$$

初期利子支払期の6ヵ月前の日

$$\times \frac{\text{から発行日までの日数}}{365}$$

(二) 平成二十九年三月十五日以

後の場合

$$\begin{aligned} & \text{償付金額} + \text{償付率} \times \text{償付率} \\ & \times \frac{79.685}{100} \times 2 \end{aligned}$$

十七 中途換金

の特例

（昭和二十五年法律第七十三号）

前号による取扱いのほか、個人向け国債を有する者（相続税法第二十一条の四第一項に規定する特定障害者扶養信託契約の受益者及び所得税法等の一部を改正する法律（平成二十五年法律第五号）第三条の規定による改正前の相続税法第二十一条の四第一項に規定する特別障害者扶養信託契約の受益者を含む。）が、死亡したときにはその相続

人が、又はその居住する市町村（特別区を含み、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）昭和二十二年法律第十九第一項の指定都市にあつては、当該市又は当該市の区とする。）の区域において、災害救助法（昭和二十二年法律第百十八号）による救助の行われる災害が発生し、当該災害にかつたときには当該個人向け国債を有する者が、平成二十八年九月十五日前であつても、当該個人向け国債の中途換金を請求することができるとし、その買取金額は、次の区分に応じ、それぞれの算式により算出した金額とする。

(一) 平成二十八年三月十五日から平成二十八年九月十五日前

までの間の場合

$$\begin{aligned} & \text{す} \text{金} \text{す} \text{額} \text{+} \text{利} \text{子} \text{に} \text{相} \text{当} \text{す} \text{る} \text{金} \text{額} \text{+} \text{利} \text{子} \text{に} \text{相} \text{当} \text{す} \text{る} \text{金} \text{額} \\ & \times \frac{79.685}{100} \text{+} \text{利} \text{子} \text{に} \text{相} \text{当} \text{す} \text{る} \text{金} \text{額} \text{-} \text{受} \text{入} \text{利} \text{子} \text{に} \text{相} \text{当} \text{す} \text{る} \text{金} \text{額} \text{-} \text{受} \text{入} \text{利} \text{子} \text{に} \text{相} \text{当} \text{す} \text{る} \text{金} \text{額} \end{aligned}$$

(二) 平成二十八年三月十五日前

の場合

$$\begin{aligned} & \text{す} \text{金} \text{す} \text{額} \text{+} \text{利} \text{子} \text{に} \text{相} \text{当} \text{す} \text{る} \text{金} \text{額} \text{+} \text{利} \text{子} \text{に} \text{相} \text{当} \text{す} \text{る} \text{金} \text{額} \\ & \text{-} \text{受} \text{入} \text{利} \text{子} \text{に} \text{相} \text{当} \text{す} \text{る} \text{金} \text{額} \text{-} \text{受} \text{入} \text{利} \text{子} \text{に} \text{相} \text{当} \text{す} \text{る} \text{金} \text{額} \end{aligned}$$

十八

元利金支  
払場所

日本銀行